

(参考) 琵琶湖流域水物質循環モデルについて

本モデルの技術的なポイントは以下の3点です。

(1) 陸域ー湖内流動ー湖内生態系を結合したモデルの構築

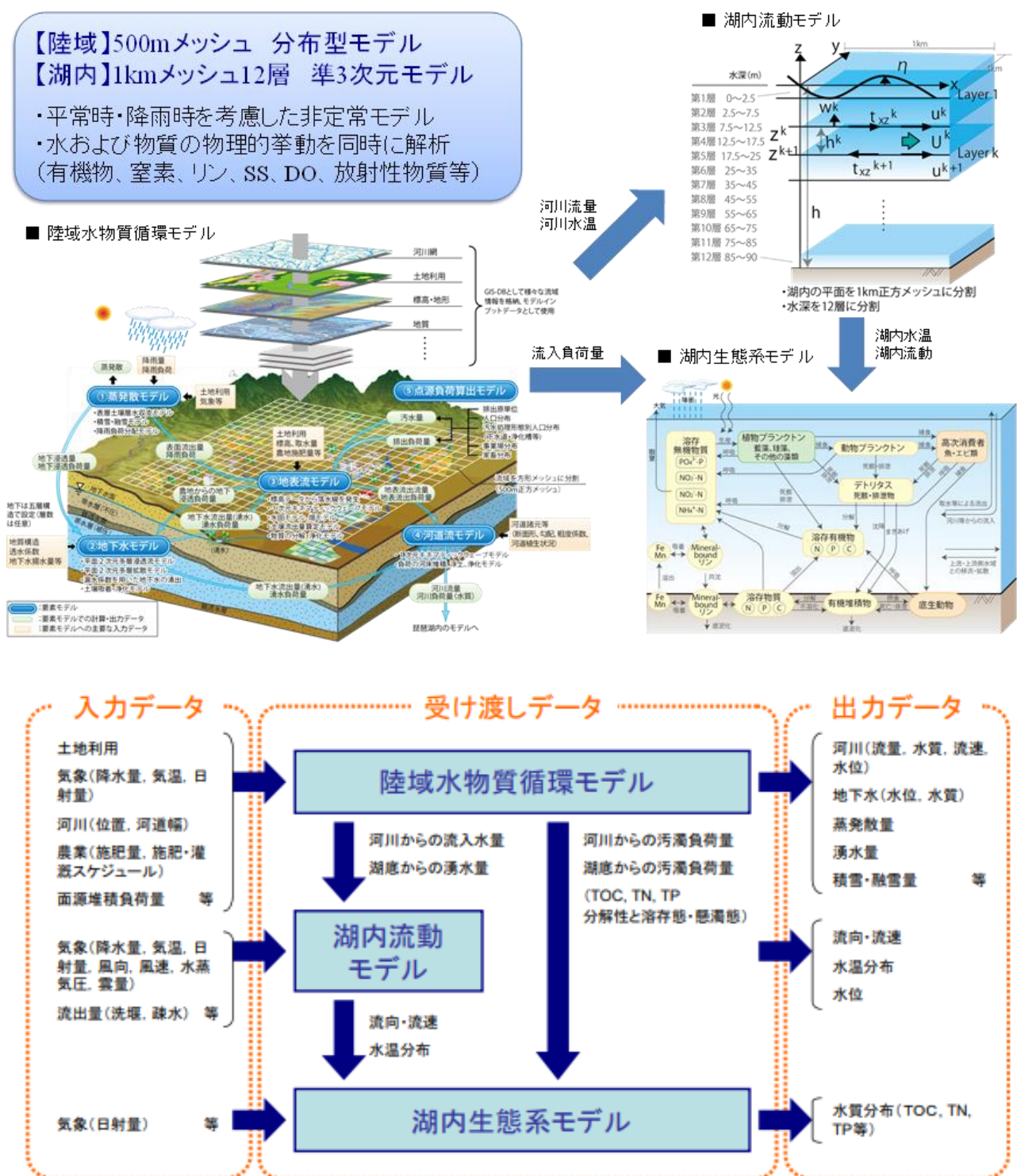
琵琶湖内だけでなく、河川を含む流域を含めて一体的な解析を行えること

(2) モニタリングとの連携

琵琶湖等の水質モニタリングと連携することで、随時状況把握や解析を行えること

(3) 陸域から湖内まで炭素量ベースでの一貫した計算

有機物（水中の汚れ）の指標として、化学的酸素要求量（COD）ではなく、炭素量を直接モデルの中で利用・解析することで、より具体的な原因究明につなげられること



本モデルは、具体的に以下のような政策形成に貢献してきました。

- ・琵琶湖に係る湖沼水質保全計画（通算４期）における水質予測シミュレーション
- ・琵琶湖の難分解性有機物の起源の推定
- ・気候変動による琵琶湖の全層循環等への影響の予測
- ・原発事故時における琵琶湖内の放射性物質の拡散予測
- ・流入負荷の削減だけでなく、物質循環を健全化するという新たな方向性の提案